

男女各十二チームが参加し、三チームのリーグで戦いリーグ一位のチーム（四チーム）が決勝トーナメントに進み、男女共に三重県が優勝しました。

このコロナ禍で、数々の大会から遠ざかっていた選手にとって試合が出来る有り難さを知りました。更には、他県選手との交流もあり今後の剣道人生にプラスになるのではないのでしょうか。

最後に、コロナ禍において感染対策をしながら、この大会を開催して頂いた三重県や三重県剣道連盟に対しまして心から感謝いたしたいと思います。



岐阜県成年選手団

三重とこわか

国体代替大会に出場して

監督 荻田 ひろ美

「三重国体中止」この言葉を聞いたのは、

ブロック大会にむかう道中、もうすぐ会場に着く車内でした。新型コロナウイルスのまん延防止のため、十分な稽古ができていない状況ではありましたが、選手は「とこわか国体」の出場を目指して、今できることに精一杯取り組んできました。そんな中、ネットを通じて聞こえてきた「国体中止」に動揺は隠しきれませんでした。「ブロック大会はやるのかやらないのか」、会場に到着してからもそんな雑音で一杯でした。そして勝ち取った国体出場権。これほど悔しく、残念な優勝はありませんでした。

しかし、こうして代替大会を開催して頂き、規模は小さいけれども、「試合ができる」ことに感謝の気持ちしかありませんでした。選手ももう一度気持ちを奮い立たせ、大会に臨みました。

女子は各ブロックを勝ち抜いてきたチームがほとんど参加し、まさに国体と同じような環境の中で試合ができました。結果は北海道には1-1の本数勝ち。茨城に0-2で負けてしまい、決勝トーナメントに進むことはできませんでした。特に茨城に対しては、勝てる試合を落としてしまったという思いが強く、それぞれが自分の試合内容を振り返っていました。この姿からも、選手はすでに来年の大会に向かっていると感じました。

昨年からのコロナによってさまざまな大会が中止になったり、稽古ができなかったり、また、試合の様相も変更になりました。それによって今回のように改めて剣道ができることへの感謝の気持ちも増え、活躍できるよう精進

したいと思っています。

選手 先鋒 吉田沙紀
中堅 山北麻未
大将 成瀬有紀恵

第42回東海ブロック大会

令和三年度国民体育大会第四十二回東海ブロック大会が、八月二十二日（日）静岡県武道館で開催されました。

東海四県の内、国体開催県の三重県を除き、愛知、岐阜、静岡の三県でリーグ戦方式で行われ、岐阜県は、成年女子一位、少年男子二位、少年女子一位という好成績でした。

試合結果は、次のとおりです。

成年女子の部

県名	静岡	岐阜	愛知	勝数	勝者数	勝本数	順位
静岡		△ 1 1	○ 2 2	1	3	3	2
岐阜	○ 3 2		○ 2 2	2	4	5	1
愛知	△ 2 1	△ 1 1		0	2	3	3

少年男子の部

県名	静岡	岐阜	愛知	勝数	勝者数	勝本数	順位
静岡		○ 4 3	○ 3 3	2	6	7	1
岐阜	△ 3 2		○ 6 4	1	6	9	2
愛知	△ 2 2	△ 3 1		0	3	5	3

少年女子の部

県名	静岡	岐阜	愛知	勝数	勝者数	勝本数	順位
静岡		△ 4 2	△ 4 1	0	3	8	3
岐阜	○ 4 3		○ 5 3	2	6	9	1
愛知	○ 7 4	△ 4 2		1	6	11	2



東海地区予選の岐阜県チーム